

令和3年度ミクロネシア諸島自然体験オンライン交流事業報告書

1. 趣旨

日本とミクロネシア諸島の中学生（12～17歳）が、オンライン交流を行い、自分たちの住む国や地域、学校等に関して紹介しあうことを通して互いの国について理解を深める。

有志生徒により行う”After School”プログラムと、授業時間中にクラス単位で交流する”In a Classroom”プログラムの2段階で実施した。

2. “After School”プログラム（有志生徒による放課後プログラム）

（1）日程

令和3年9月22日（水） 日本時間 15時～16時

（日本/パラオ時間 3PM-, チューク時間 4PM-, ポンペイ時間 5PM-）

☆ 事前の取組として、テーマ（「私たちの住む町」「昔話」「伝統文化」より選択）について作成した短い動画を送り合い、質問や感想を準備した。

（2）参加校・参加者

日本側：渋谷区立松濤中学校 有志生徒 22名（1年生7名、2年生10名、3年生5名）

ミクロネシア諸島側：2か国より有志生徒 20名 ※マーシャル諸島共和国から希望なし

ミクロネシア連邦チューク州 [Chuuk High School] 7名

ポンペイ州 [複数の学校から参加] 6名

パラオ共和国 [Koror Elementary School] 7名

☆ 松濤中学校1年生とミクロネシア連邦ポンペイ州、2年生とパラオ共和国、3年生とミクロネシア連邦チューク州の3グループに分かれて交流を行った。

（3）事業概要

15:00 開会行事

主催者挨拶

国立青少年教育振興機構 古川和理事長

15:10 交流開始

交流会の前半では、予め送り合っていた動画について互いに質問したり感想を述べたりした。日本側生徒は、質問や伝えたいことを入念に準備してきており、冒頭から積極的な交流が見られ、英語での意思疎通ができるたびに大きな歓声が上がった。

後半になると、話し方や声の大きさを工夫しながらさらに打ち解けている様子が見られ、互いの学校生活から、部活動、趣味に関する質問が双方から活発に出されるなど、交流が深まっていく様子が見られた。



古川理事長による開会の挨拶



パラオ共和国と交流する日本側生徒

16:00 閉会行事

来賓挨拶

パラオ共和国大使 フランシス・マツタロウ閣下

ミクロネシア連邦大使 ジョン・フリッツ閣下

日本側参加校代表者挨拶

渋谷区立松濤中学校校長 守原智信氏

ミクロネシア諸島側参加校代表者挨拶

パラオ共和国代表 Mamoru Gibson 氏

ミクロネシア連邦代表 Lenson Taulung 氏



守原智信校長の挨拶

交流会を観覧されたパラオ共和国大使のフランシス・マツタロウ閣下、ミクロネシア連邦大使のジョン・フリッツ閣下が生徒達に労いの言葉をかけられた。また両閣下より、20年近く続いてきた日本とミクロネシア諸島の子どもたちの素晴らしい交流がこれからも続くことを願うとのお話があった。



ミクロネシア連邦
フリッツ大使



パラオ共和国
マツタロウ大使



参加者全員での記念写真

終了後、日本側生徒からは「言いたいことを英語ですらすら言えて自分でもびっくりした」「初めて会ったのに友達のように話せて、時間が経つのが早く感じました」等の感想があり、「もっと自分の国の文化を説明できるようになりたい」等の今後への意気込みも多く聞かれた。また、ミクロネシア諸島側生徒からは「遠く離れ、異なる文化圏に暮らしている日本のみなさんと友達になれて嬉しかった」等の感想が寄せられた。両国ともに、日本とミクロネシア諸島の共通点や互いの国の伝統文化について様々な発見があったことが伺えた。

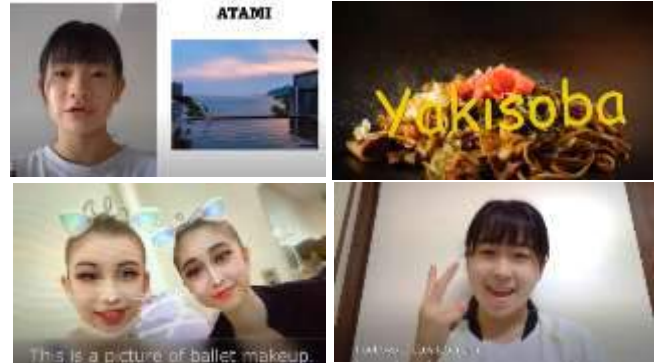
3. “In a Classroom”プログラム（授業時間を活用したプログラム）

（1）日程

パラオ共和国	令和3年11月1日（月）13時35分～14時25分
マーシャル諸島共和国	令和3年11月5日（金）8時55分～9時45分
ミクロネシア連邦	
チューク州・ポンペイ州	令和3年11月5日（金）9時55分～10時45分

☆ 松濤中学校1年A組とパラオ共和国・マーシャル諸島共和国、B組とミクロネシア連邦ポンペイ州、C組とチューク州が交流した。

☆ 日本側生徒は、あらかじめ『夏休みの過ごし方』をテーマにして1分程度の英語の動画を作成し、ミクロネシア諸島側に送付した。ミクロネシア諸島側生徒は交流会前にその動画を視聴し、質問したいことを考えるなどの事前準備を行った。



日本側生徒による動画『夏休みの過ごし方』

（2）参加校・参加者

日本側：渋谷区立松濤中学校 1年A, B, C組（計87名）

ミクロネシア諸島側：3か国より計72名

 パラオ共和国 [Koror Elementary School] 27名

 ミクロネシア連邦チューク州 [Saramen Chuuk Academy] 7名

 ポンペイ州 [Nett Elementary School] 26名

 マーシャル諸島共和国 [複数の学校から参加] 12名

（3）事業概要

3か国からの4つのグループと、以下の流れで交流を実施した。

○ 開会

日本式の「起立、礼」の挨拶をミクロネシア諸島側にも教え、双方一緒に礼をして交流を開始した。

○ ミクロネシア諸島側発表

まずミクロネシア諸島側が『夏休みの過ごし方』をテーマに発表した。夏休みを楽しく過ごした様子を絵に描いて披露したり、身近な海の生き物について写真と共に説明したりなど、分かりやすく楽しい発表が続いた。



交流相手に手を振る日本側生徒

○ 質問タイム

日本側生徒は発表を聞きながらミクロネシア諸島側生徒への質問をタブレットに入力し、担当教員は代表生徒をカメラの前に呼んで質問タイムを行った。日本側生徒からは「人気のあるスポーツは何ですか」「朝ごはんには何を食べますか」等の質問が出され、

「野球です」「シリアルと牛乳です」という回答を受けると、更に「学校に野球チームはありますか」「私は今朝おにぎりを食べました」と会話を膨らませた。

その後、ミクロネシア諸島側の生徒からの質問タイムとなり、「夏にはどんな行事がありますか」「日本のスポーツには何がありますか」等の質問に、日本側生徒はタブレットを使って七夕の写真を見せたり、空手や柔道、剣道の動きを実演したりなど、非言語のコミュニケーションを上手に織り交ぜつつ、日本文化を紹介した。



空手の型を実演する日本側生徒

○ 閉会

交流会の最後にはミクロネシア諸島側から別れの挨拶を教わり、互いに大きく手を振りながら約1時間の交流を終えた。



文化遺産を紹介する
ポンペイ州の生徒



魚について発表する
マーシャル諸島共和国の生徒



自分の住む島を描いた
パラオ共和国の生徒



日本側に質問する
チューク州の生徒



カメラの前で質問する日本側生徒

終了後、ミクロネシア諸島側学校担当者からは、「異なる文化を知ることのできるとても良いプログラムで、ぜひ来年も実施してほしいです」「生徒達は交流会が終わってからそのことばかり話しています」等、喜びの声が届いた。日本側参加校である松濤中学校担当者からは、「自国の文化を英語で紹介することで、他国との違いや特徴を意識する良い機会となりました」との声があった。今年度はオンラインでの交流ではあったが、多くの生徒達に国際交流の場を提供することができ、実りのある事業となった。